社会人基礎力協議会News

一般社団法人
社会人基礎力
協議会

第18号　2025年3月31日発行

1　2024年度　社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会開催

グランプリ委員会

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」は、大学等での取り組みで社会人基礎力に関して大きく成長した学生らの表彰を通じて、効果的な育成事例を多くの方々に周知する趣旨で開催しています。2024年度のグランプリも協賛企業の皆様、各大学等関係者の皆様のご協力を得て開催しました。全国から総数20チームがエントリーし、5地区での予選大会を経て、各地区の最優秀賞を受賞した5チームが集い、3月14日に全国決勝大会を開催しました。

開催概要

日時・場所：　2025年3月14日(金)　13:00～17:15　オンライン開催（Webexミーティングおよび YouTubeライブ配信）
審査員長：　iU情報経営イノベーション専門職大学　教授　久米　信行氏
審査員：　経済産業省　経済産業政策局 産業人材課 課長補佐　占部 昭裕氏
株式会社ウチダ人材開発センタ　常務取締役　金子 栄司氏
株式会社学研ホールディングス　ダイバーシティ＆インクルージョン室 室長　髙橋 美佐氏
実践女子大学　文学部　教授　深澤 晶久氏

全国決勝大会結果

本年度の大賞は、埼玉女子短期大学でした。教養として学んだSDGsの知識と自分たちの大学のある自治体での現実とのギャップを知り、自治体、事業者、住民を巻き込む難度の高いテーマに取り組みました。それぞれの事情や考え方の違いに悩み考え抜き、著しい成長を遂げ大賞受賞となりました。準大賞の受賞は２件ありました。１件目の人間環境大学の皆さんは、リサイクルが本当にリサイクルになっているのか輸出先の国でのアンケート調査に挑みました。しかし、取り組みを信用してもらえず、容易にアンケートが進まない現実に悩み、仲間ととも考え抜き行動し、成長を遂げました。２件目の函館大谷短期大学の皆さんは、洋上風力発電事業を進める電力会社のテーマに挑んだものの現実には推進と反対の両論があることに直面し、容易に結論の出せない実社会での調査活動を通し成長しました。その他、審査員特別賞が２件ありました。近畿大学の皆さんは、学生のアイディアから自動配送ロボットの社会実装実験を実施する課題に挑みました。福岡大学の皆さんは、230人もの受講者のある授業を学生自身がプロジェクト的に運営する取り組みでした。学生らは、社会の課題解決に挑み、自分たちの解決案を思い描きますが、多数の関係者に係る中で、容易でない社会の実情に悩みます。そこから仲間と考え抜くことが社会人基礎力の成長に大きな影響を与えていると言えそうです。それを感じさせる発表が多くある大会でした。

出場チーム・発表テーマ・全国決勝大会結果

地区	学校名	テーマ名	大会結果
北海道	函館大谷短期大学	道南地域の企業に対する桧山沖洋上風力発電事業への認知度向上のための提案	準大賞
東北・関東	埼玉女子短期大学	理想と現実　～学ぶSDGｓと取り組むSDGｓとの狭間で～	大賞
近畿	近畿大学	hakobot×近畿大学古殿ゼミ －自動配送ロボットを用いた日本の物流課題の解決－	審査員特別賞
中国・四国	人間環境大学	日本から輸出される中古衣料品はゴミの押し付けではないのか？	準大賞
九州・沖縄	福岡大学	ベンチャー起業論	審査員特別賞、協賛企業/団体賞

① 社会人基礎力大賞
　埼玉女子短期大学
② 社会人基礎力準大賞
　函館大谷短期大学
③ 社会人基礎力準大賞
　人間環境大学
（発表者の皆様と審査員の皆様でオンライン記念撮影）

【2024年度全国決勝大会視聴希望の皆様へ】
全国決勝大会動画　https://biz100.org/gp2024_movie
上記からお申込いただくと、動画を閲覧可能です。
（4月中旬より公開開始、期間限定　2026年3月中旬まで）

2　社会人基礎力育成グランプリ地区予選・全国決勝大会　運営改善点

グランプリ委員会

　本大会は、2020年度からオンライン開催を採用していますが、本年度の開催方法は、地区ごとの判断としました。中国・四国地区予選大会は愛媛県の松山大学を会場に対面開催を行いました。審査員からは待望されていた対面開催について今後、効果、課題などを検証していきます。2025年度の開催方法も、地区ごとの判断の予定です。全国大会の開催方法は、対面開催を検討しつつ、オンライン開催の準備を進めていき、大会参加募集の開始までには決定させる予定です。

取り組みの「成果」と社会人基礎力の「発揮」と「成長」をどのように評価するか

　社会人基礎力の重要性は広く認知されており、大学等のカリキュラムでの社会人基礎力の醸成が期待されています。社会人基礎力は成果を出すための基礎力と捉えられており、困難な状況や単なる作業では成果が出にくいときにこそ、社会人基礎力の発揮が必要になると考えています。どのように困難な取り組みだったのか、成果につながる社会人基礎力を発揮した自覚があるかについての発表が必要になります。審査の際には、発表者自身の「発揮した」「成長した」という主観的な結論だけでなく、その結論に審査員が納得できる具体的なエピソードによる説明が求められます。そのために自分たちが行った活動を振り返り、そこでの気づきを言葉にしてみることが大切です。

　当協議会が実施する大会では、成長の要因を中心に、審査項目を適宜、見直しています。本年度の大会では、①社会人基礎力の発揮、②前に踏み出す力の成長、③考え抜く力の成長、④チームで働く力の成長、⑤リフレクションの5項目に整理しました。
　①では、取り組み成果の内容と社会人基礎力の発揮について評価します。②～④では、それぞれの成長を認識した根拠、成長の要因などを評価します。⑤は、学び得たことを今後どのように生かしていくか、未来の目標を評価します。さらに、質問時間を10分とし、審査員からの質問で審査項目に関する掘り下げを行いました。

発表内容量に見合った発表時間の見直しが必要

　本大会の発表に期待される内容は多岐に渡っています。「取り組んだ内容」「活動での社会人基礎力発揮エピソード」「社会人基礎力の成長実感とその要因分析」「今後の目標」といった広範囲が含まれます。発表は、最初に教員より４分程度で「授業の位置づけ」があり、残り10分程度で、上記の内容を説明しますが、それにはかなり工夫が必要です。審査員からは、年々、発表の組み立てが良く練られているように思うと評価をいただいています。 全国大会の録画の公開が、うまく活用されていると思われます。審査の観点からは、一問一答のように定型の発表の方が審査しやすいとの意見をいただいていますが、それが発表方法として良いのかは、慎重な議論が必要です。発表の組み立て方には、決まった正解はなく、発表者の活動ごとに合った発表の組み立てがあると思います。今後、発表の構成方法がさらに開発・工夫されていくことが期待されます。また、あと少し時間があれば、良い発表になりそうだとの声もいただいています。昨年度より質問時間を10分間に延ばしましたが、今後は、発表時間と質問時間を見直すことも検討していきます。

自己の成長への振り返りを追求する希少な本大会をもっと知っていただくことが必要

　ビジネスプランコンテスト等の学生らの成果を評価する大会が多く実施されるようになった現在、成果を出すために発揮した社会人基礎力、そして発揮できるように成長したことを振り返る本大会は、独自の着眼点であり、経済産業省、審査員、そして参加大学等の先生方より高く評価されています。社会人基礎力育成グランプリの大会の狙いがより明確に深化している一方で、大会に参加していただけるチームは減少傾向です。やはり、本大会が知られていないという分析に至りました。グランプリ委員会では、この課題解決に取り組むとともに社会人基礎力育成協議会の活動にご賛同いただいているみなさまにも、社会人基礎力育成グランプリの周知に、是非、ご協力をお願い申し上げます。

<地区大会の様子
Webexミーティングに発表者・関係者が集合
（数十名規模）>
（対面開催の中国・四国地区は記録写真なし）

① 北海道地区
② 東北・関東地区
③ 近畿地区
④ 九州・沖縄地区

グランプリ大会の情報は
以下QRコードからも
ご覧いただけます。

3　2024年度　リカレント委員会活動報告

リカレント委員会

2024年度を振り返って

隔月の勉強会（フォーラム）5回と8月の年次大会をオンラインにて開催しました。各勉強会での意見交換および質疑応は予定の時間を超過するほどの熱気を帯びたものとなりました。大脇氏の講演は、様々な選択を経て人の影響と自分の条件を勘案し選んだ道で全力を尽くすことが最善の策であるとお話しいただきました。上田氏は従業員のキャリア教育を主軸として人事を科学的にアプローチし、徹底的に従業員一人ひとりと向き合い個々の力を最大限に引き出す人材育成の実例についてご紹介いただきました。日暮氏は、企業が求める人材に対応すべくオープン型新人研修における社会人基礎力の育成の現状と課題についてお話しされました。熊澤氏は学生をチーム化してひたすらチームで「考える」ワーキングを実施されています。その中で学生自身の「旗（フラッグ）」を掲げてほしいとお話しされました。小松原氏は社会人基礎力の成立とご自身との関わり、そしていつの世にも社会人基礎力の３つの能力と12の能力要素が必要であるとお話しいただきました。各講演者の取り組みから、社会人基礎力の重要性を改めて学ぶこととなりました。

フォーラム各回の主なテーマと講演者

第1回 「人生にむだな経験は無い！ 人に生かされ、人を生かす経営とは？」大脇耕司氏（株式会社ソアーシステム代表取締役）
第2回 「日本で一番ひとが育つ会社」を本気でめざす”人事制度改革”上田勝幸氏（株式会社DAYTOLIFE執行役員）
第3回 「IT業界向けオープン型新人研修における社会人基礎力の活用と傾向」日暮薫氏（株式会社ウチダ人材開発センタ）
第4回 「15年続く学内キャリア支援ビジネスを、元ラーメン屋が立ち上げた秘伝の基礎力とは？」熊澤匠 氏（キャリアフラッグ株式会社代表取締役）
第5回 「社会人基礎力の黎明期を語る」小松原潤子氏（学校法人河合塾 教育研究開発部）

2025年度に向けて

経済産業省が2018年に「人生100年時代の社会人基礎力」と再定義してから7年が経過しました。これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりのなかで、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義されました。2025年本委員会では、特に「前に踏み出す力」に注目し、組織の枠を超えて活動する「越境学習」や「兼業・副業」の実践事例を学ぶ場を提供して参ります。枠を超えて社会に通用する「ポータブルスキル」がどういうものか、検討したいと考えております。　　　　　　（委員長　渡邉明男）

4　2024年度　研究委員会活動報告

研究委員会

2024年度を振り返って

研究委員会では、ニュースレターや機関誌の発行に加え、2023年度から学修交流研究会をスタートさせました。これらの活動を通じて多方面からの研究活動が紹介されました。活動を通じて言えることは、21世紀に入り、ますます非認知能力の育成の重要性が問われていると言うことです。大学においてもアクティブラーニングを取り入れた授業形態が多くなっていることから、研究会としては、特に実践研究における、分析、手法、カリキュラム開発など多方面からの研究活動に注目していきたいと考えます。

社会人基礎力学修交流研究会

学修交流研究会については、次ページで紹介します。

協議会機関誌「社会人基礎力研究」およびニュースレター発行

2024年度の機関誌は2024年3月に第６号を発行することができました。投稿数は少なかったものの、時代を反映した社会人基礎力育成に関する、教育現場からの問題提議やビジネス界からの現状報告など興味深い投稿を頂きました。ニュースレターは以下の予定でHPから活動内容を発信する予定です。

2025年　7月 ニュースレター発行（2025年度 協議会方針他）
2025年　8月 年次大会での研究委員会
2025年　9月 2025年度 第1回研究会（予定）※後日、詳細はHPにてご案内いたします。
2025年11月 ニュースレター発行（2025年度 年次大会レポートなど）
2025年12月　2025年度 第2回研究会（予定）※後日、詳細はHPにてご案内いたします。
2026年　3月 ニュースレター発行(グランプリ大会報告他)機関誌『社会人基礎力研究』第７号発行

（委員長　栗田るみ子）

5　株式会社マイナビ様「社会人基礎力」講座を監修

事務局

2024年度に株式会社マイナビ様が展開されている「My CareerStudy」の「社会人基礎力」講座を監修させていただきました。2024年度版は、講師がひとり語りのE-learning式でしたが、今回は、タレントの新田さちか氏とサービスキャラクターのWillくんが対談するエンターテイメント性の高い仕様で、動画を視聴しながら、社会人基礎力について楽しく学べます。2024年度版は、大学生向けでしたが、今回は高校生向けバージョンも含まれています。内容は次のとおりです。

① 社会人基礎力講座　発見編
② 「前に踏み出す力」の存在と、その鍛え方
③ 「考え抜く力」の存在と、その鍛え方
④ 「チームで働く力」の存在と、その鍛え方
⑤ 社会人基礎力講座　発見編（高校生向け）

（代表理事　長尾素子）

参照HP：https://mcstudy.mynavi.jp/mem/courseset/135286/class-detail

6　リカレント委員会主催　フォーラム＆勉強会　実施報告

リカレント委員会

リカレント委員会では、2か月に１回のペースで定期的にフォーラム＆勉強会を開催し、社会人基礎力への理解促進、普及に努めています。12月および2月に開催したフォーラム（オンライン開催）についてご紹介します。今回は学生の社会人基礎力育成（醸成）をサポートするうえで、異なるアプローチから取り組んできたお二人の講演となりました。社会人基礎力の定義をつくる、評価する、育成するなど過去から現在までの足跡と現在取り組んでいる事例についてご紹介いただき、参加者にとって改めて社会人基礎力の必要性を認識する機会となりました。一方自身の経験に基づいた「学生のチーム化」の実例紹介からは、「失敗を恐れずに挑戦する支援とは」を大いに考えさせられました。今後もすべての世代に共通である社会人基礎力をOSとしてアップデートすべく勉強会（セミナー）を実施してまいります。より多くの皆様の参加をお待ちしています。

2024年12月フォーラム

2024年12月21日（土）10:00～12:30「15年続く学内キャリア支援ビジネスを元ラーメン屋が立ち上げた秘伝の基礎力とは」

講師：キャリアフラッグ株式会社　代表取締役　熊澤　匠（くまざわ　たくみ）氏

主旨：学生をチーム化して課題を出しひたすらチームで考えるワーキングを実施しています。周囲からの支援はコミュニケーションの活性化につながり、必ず社会への価値創造をもたらすと考えます。学生を支えるために学生たちの周囲のコミュニティを活用し学生たちはチームで存在し社会に向かっていることをもう一度捉え直すことが重要です。学生たちに、あなたの「旗（フラッグ）」を掲げてほしいと願い、その足場創りが自身の仕事と心得ます。チームフラッグを掲げることを学生たちと一緒に目指します。

2025年2月フォーラム

2025年2月22日（土）10:00～12:00「社会人基礎力の黎明期を語る」

講師：学校法人　河合塾　教育研究開発部　小松原潤子（こまつばら　じゅんこ）氏

主旨：我が国の産業活動を担う人材育成を目的とし経済産業省とともに社会人基礎力の必要を認識しモデル大学への導入に取り組みました。社会人基礎力の定義、評価、フォーラム（グランプリ）、育成事例研究セミナーなどに携わり現在は教員に対して授業改善をサポートする取り組みを実践しています。すべての世代に社会人基礎力は必要と考えます。

（リカレント委員会　波止由美）

7　研究委員会主催　社会人基礎力学修交流研究会　実施報告

研究委員会

研究委員会では、2023年度に引き続き「社会人基礎力学修交流研究会」を2回、いずれも対面形式で開催しました。今年度は研究の活性化と実践をテーマに話題提供と事例発表、ワークショップを行ないました。参加者同士でのディスカッションや対面での交流に重点を置いた企画となり、参加者からも大変好評な研究会となりました。2025年度も2回程度の実施を企画しておりますので、ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

第1回　社会人基礎力学修交流研究会

2024年11月30日（土）15:00～17:00

拓殖大学　文京キャンパス　C館　C407教室

① 話題提供（基調講演）
「日本における社会人基礎力の研究動向と可能性」
講演者：黒田友貴（研究委員会）

② ワークショップ・全体ディスカッション

第2回　社会人基礎力学修交流研究会

2025年2月19日（水）14:30～17:30

拓殖大学　文京キャンパス　E館　4階401教室

テーマ：「社会人基礎力を磨く！
生成AIを活用したカード型グループワーク研修」

① 事例発表「カード型グループワーク教材の開発背景と概要」
講演者：福山大学　大学教育センター
講師　前田吉広氏

② ワークショップ（カード教材の体験）・全体ディスカッション

（研究委員会　黒田友貴）

編集後記

ニュースレターへのご意見・ご要望募集

2024年度 社会人基礎力育成グランプリ大会へのご協力ありがとうございました。次年度以降も、社会人基礎力強化の促進に寄与するべく、活動の活性化に向けて改善を図ります。このNewsでは大学や企業における社会人基礎力強化に役立つ情報を取り上げていきます。会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望などもお待ちしております。左記QRコードの協議会HP「お問合せ」フォーム、または、下記事務局メールへお気軽にご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。
（担当：研究委員会副委員長　人材開発コンサルタント　山﨑　紅）

一般社団法人　社会人基礎力協議会　　事務局（株式会社Trust Cooperation　内）メール:jimukyoku@biz100.org
〒170-0013　東京都豊島区東池袋2-62-8BIG OFFICE PLAZA池袋11F　　　TEL:03-5918-8170 (代)